

木の葉の茶の年  
（おひはう葉の茶の年）

こんにちは。

葉っぱ向島園園主 向島和詞(カズト)です。

一年は早いもので、もうすぐ師走を迎えようとしています。

吹き付ける風も段々と冷たくなり、冬の訪れを感じます。森の木々も季節を伝えるかのように、段々と色を赤らめてまいりました。かわいい子たちです。

自然界の中のこの一年。 皆様にとってのこの一年。

どんなものだったでしょうか?



僕にとってのこの一年は、衝撃そして感動と喜びの連続でした。

今年の一一番茶…今まで一番手を入れた畠から取れた茶葉は、今まで経験したことがないくらい葉肉が薄く、味・香・色の薄いお茶でした。

こんなに手を入れたのにと思う僕の心。何でなんだとイラ立つ毎日！

あんなに手を入れてやったのに！

あれ？おかしくないかなあ～

全く自分勝手ですよね。ふと気づきました。俺は何様だと？。

大丈夫とは思っていましたが、四月の初め、雪が降るほど冷え込んだ日がありました。この日に、新芽が凍り付いてしまったみたいです。

大変な状況の中、お茶たちは私たちに「恵み」を与えてくれました。その無条件の「恵み」=「愛」を頂いている。なんてありがたいことなのか。

いつもあるものには、感謝が薄れてしまいます。もう一度、気持ちをリセットさせてもらいました。

今年の新茶の状況をお客様にお伝えさせていただき、ご理解頂き本当に感謝しております。とても嬉しかったです。

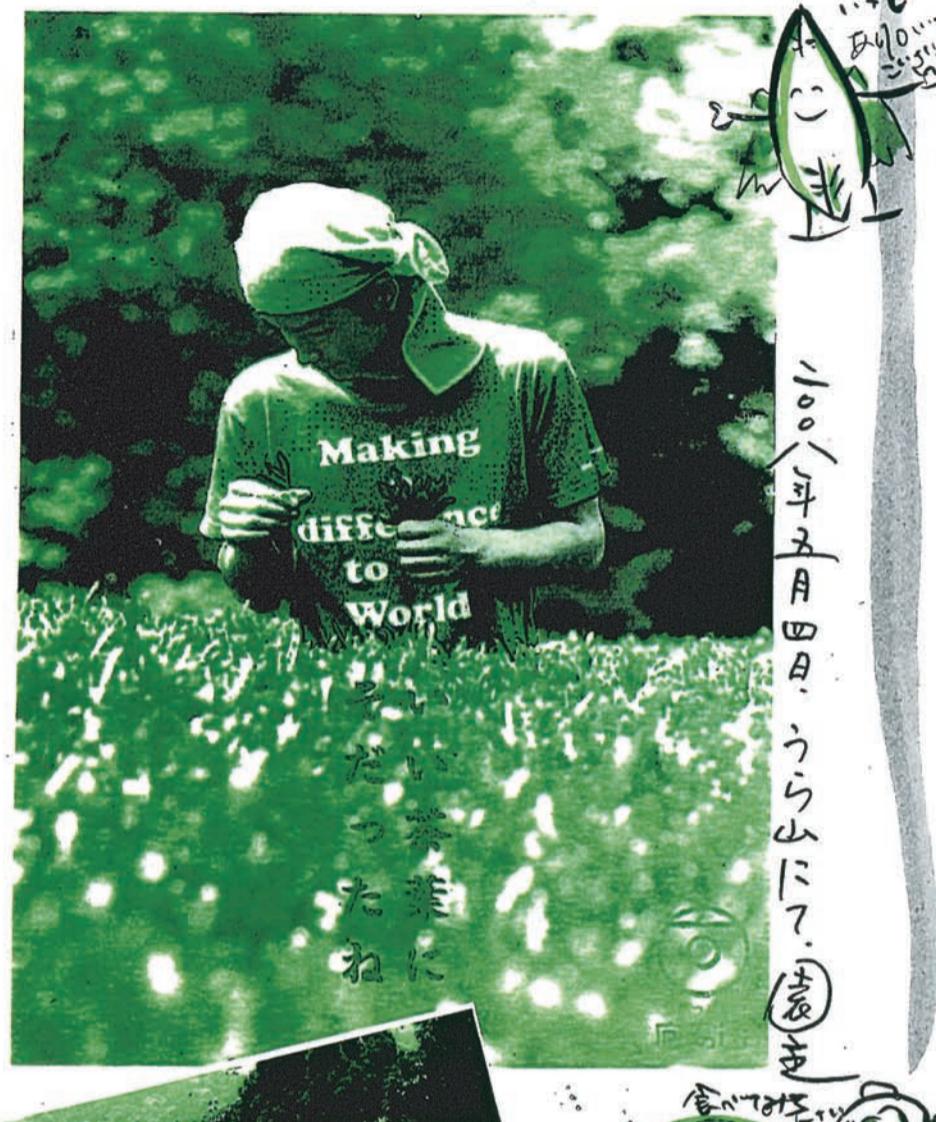
ここ五年間、地球を取り巻く環境が大きく変わっています。日本独特の四季が異常気象により二季に近くなり、暑い・寒いのON・OFFの天候に近くなってきました。春と秋が短いということです。この日本独特の四季が、お茶・野菜・果実の奥の深い味を生み出すのですが、二季になると淡白になってしまいます。このめまぐるしい天候の変化に、各農家は対応に苦労しています。

そんな状況の中で、いかに植物の示してくれる声に耳を傾け、共存していくか。その受け取ったメッセージをいかに皆様にお伝えできるか。

今後のテーマだと思っています。

このような時代だからこそ「ほつ」と癒される美味しいお茶の生産に今後も努力していくたいと思います。

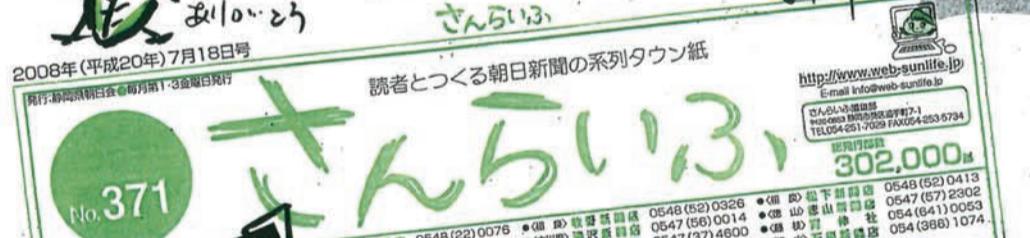
飛沫  
2008.11



一〇八年五月四日 うら山に？ (夜)



穂が重い(+) いまの  
お半仕事



急須の内側に帯状の網を張りめぐらせた様式のものです。茶葉が浸透しやすく、あらゆる茶葉に適しています。目詰まりしにくいところも特長です。